

能島城(国史跡, 続百名城) (今治市宮窪町能島)

中世、村上水軍の一派、能島水軍(野島氏)が水軍城を設けた。この付近の海域は帆船時代、瀬戸内海航路の最も重要な航路の一つであった。しかも宮窪瀬戸の東側で能島と鷓島とが流れをさえぎるような位置関係であることから、干満時には激しい潮流を生み、渦巻く急流は天然の要害ともなった。このため、平時には通過する船に対して水先案内人として行きかう船を案内し、帆別銭(一種の通行料)を徴収、室町期以降この地に能島城を築き、この海域の制海権を掌握していた。能島城には本丸、二の丸、三の丸、出丸などがあり、中世の水軍城としても規模が大きいものであった。なお、能島には水が得られないことから、近傍の鷓島や木浦から補給していたとされる。

戦国末期、村上氏は豊臣秀吉との戦いに参戦したが敗北を喫し、秀吉の海賊停止令により、水軍の歴史は終わりを告げた。能島城は廃城となり、江戸時代以降無人島となったため、その城塞遺構はよく保存されている。

1953年(昭和28年)能島城跡の名称で国の史跡となり、1973年(昭和48年)に愛媛県教育委員会は「能島水軍の里」を設置した。その後もたびたび文化財調査等が行なわれている。

2017年(平成29年)4月6日、能島城が続日本100名城(178番)に選定された。

Wikipediaによる

能島城は「日本最大の海賊」と称された三島村上水軍のひとつである能島村上氏の拠点として、村上雅房によって築かれた水軍城です。大島と鷓島との間に浮かぶ周囲約1kmほどの能島とその南にある鯛崎島で構成されます。1588年(天正16年)に豊臣秀吉が出した海賊停止令(海賊鎮圧令)により、能島城は廃城となり、さらに江戸時代以降は無人島となったため、その城塞遺構はよく保存されており、棧橋跡の柱穴(ピット)が約460個も残っています。また大島にある村上水軍博物館には能島村上氏関連の展示があります。能島の周辺は潮の流れが速く複雑で自然の要害となっており、現在は博物館の近くから観光船に乗って潮流体験ができます。なお、能島には定期船がなく、土・日・祝日のみ能島上陸&潮流クルーズが運行中です(要予約)。

「攻城団」による



正面頂部が本丸跡

船溜まり

